

公立高校入試まで100日！どのように勉強していますか？

公立高校の入試まで凡そ100日になりました。まだ100日あると感じる人と、あと100日しかないと感じる人、人によって感じ方は様々かもしれません。また、高校入試の問題を日々解いている人、定期テストで頑張って内申点を上げることに努めている人、具体的な行動も人によって異なると思います。しかし、この時期になるともう既に志望校を決め受験勉強や面接練習などに励んでいる人が少なくないと思います。

この時期になると人によって何をやるかは異なります。勉強が順調に捗っている人は、そのままのペースを維持するように努めてください。しかし、そうでない人は、何が出来ていないのかを考え、その克服を図りましょう。

県内公立高校の一般入試の学力検査は、県内学力向上進学重点校の特色検査を除けば共通選抜の場合、全校共通の問題が出題されます。その試験範囲は、中学校の学習指導要領の範囲内、すなわち中学校の教科書の範囲が出されることとなります。ゆえに教科書の範囲を確実に押さえることが大切なのです。

過去入試問題を入手し、出題傾向や出題形式等を調べ時間内に解答できるように対応します。神奈川県の共通選抜における過去問題は、神奈川県のホームページからダウンロードすることができます。また、この時期に新たに問題集を何冊も購入し、問題を解くことはあまり勧められません。それより過去の定期試験や模擬試験等で間違えたところを見直し、必ず解けるようにするのが重要です。

本校の場合、共通選抜では英数国理社の5教科が入試問題となります。この5教科の既習事項を確認し、問題集の演習で正答できるかが、得点への鍵となります。誰にでも得意教科や不得意教科はあります。各教科の重要ポイントをまとめ、問題や模擬試験等で応用ができるかが大切です。特に、この時期、苦手科目を克服した方が、得点を稼げるケースが多いと思います。逆に、得意科目は過信せず、もう一度既習事項の見直しを行ってください。

例えば、数学の図形に関する問題で、三平方の定理、三角定規型をきちんと押さえ、正三角形や立体への応用ができるかが得点を取ることに繋がります。他にも図形の移動、合同、相似、円に関する公式など、既習事項ですが確認しておきましょう。

このように、教科書に記載されている事項、法則、公式などを押さえ、演習問題等で設問に用いることができることが大切です。教科書の範囲とは、本文に示されているものだけでなく、年表、図表、周期表、写真、絵図なども含まれます。

残り100日ですが、慌てず、確実に学習していきましょう。分からないことは学校の先生、塾の先生、理解している友人に尋ねましょう。特に、数学や理科第一分野などは、解

き方を教えてもらいましょう。まだ100日あります！頑張ってください。

英語民間検定試験の導入、見送り 2024年度を目途に抜本的な見直し

11月1日(金)、文部科学省の萩生田大臣は、閣議後の記者会見で、大学入学共通テストへの英語民間検定試験の導入について「自信を持って受験生に薦められるシステムになっていない」と述べ、令和2(2020)年度の実施を見送ると発表しました。令和6(2024)年度の実現に向け、今後1年間をかけて検討するようです。

今回、萩生田大臣は、自らが10月24日(木)のBS番組で発言した「身の丈に合わせて頑張ってもらえばよい」に対する世論の批判は影響していない、官邸主導ではなく、最終判断は自らが行ったと記者会見では述べていました。

しかし、英語民間検定試験のための共通ID申込みが開始される当日に見送りが発表され、制度が開始される5カ月を切ったなかでの見送りは、対応の遅れを指摘する声がほとんどです。

本校でも、英語民間検定試験については、10月25日付『清陵』第31号B版で記したように、基本的には大学を受験する者に対して、多くの大学が利用しますので、大学入学英語成績システムの共通IDを申込み、必ず共通IDを取得するように指導してきました。それが一転して見送りになり、さらに令和6(2024)年度を目途に新制度を検討するというのに、現段階では新たな情報がなく、どのように対応すればよいのか見えていません。決して本校だけでなく全国の高校が、文部科学省の英語検定試験について、今後の動向を注視していく状況です。

英語民間検定試験6団体7種類の検定試験うち、GTECと日本英語検定協会(英検)の2団体は47都道府県に試験会場を設けますが、他の民間試験は都市部が中心であり、地方の高校生たちには不利という声がありました。また、1回の受験料も2万円を超えるものがあり、経済的な負担が大きいという声もありました。

今回の見送りが発表されたのは、かねてから上記のような地域格差や経済的な格差があって不公平、教育の機会均等に反するという声があり、これらの懸念を完全には払拭することができず、見送りとなったわけです。

今回の英語検定試験の見送り、新制度導入に向けて検討することになりましたが、大学入試で英語検定試験を活用する大学は増加傾向にあります。世界の共通言語としての英語の重要性は、国際社会で活躍するために必要であるばかりか、日本に多くの外国の方が生活したり、来日したりすることを考えれば、英語の必要性は理解できると思います。将来、未来を考え、これを機会に英語民間検定試験に臨んでみてはどうでしょうか。